

ふるさとの伝統芸能で学校と地域をつなぐ取り組み

大分県佐伯市	●活動名	●関係する学校名
	本匠地区協育ネットワーク会議	佐伯市立本匠中学校 佐伯市立本匠小学校

協働活動開始年度	平成 23 年度	学校運営協議会	指定・設置日	令和元年5月9日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	—			
	地域未来塾	放課後子供教室	—			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人			
	—	—	—			
ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無	ICT機器活用	無	
	269人	—	—	—	—	
参考URL	http://tyu.oita-ed.jp/saiki/honiyou/					
●連絡先	佐伯市教育委員会社会教育課生涯学習推進係		☎ 0972-22-3245			



●活動の概要・経緯
当市では平成20年度から、公民館を中心に全ての中学校区に校区コーディネーターの配置を進め、子どもに関わる各種団体、組織で構成する「協育」ネットワークを構築してきた。本匠校区では、平成23年度4月に校区コーディネーターが配置され、同年8月には本匠地区協育ネットワーク会議を設置し、学校、家庭、地域が連携して子どもたちを育てるという目標を掲げ、コーディネーターが関わりながら地域学校協働活動を行ってきた。具体的には、学校の環境整備、学習支援、放課後子ども教室、野外での体験活動などの取り組みである。
令和元年には学校運営協議会も設置され、協育ネットワーク会議と連携しながら、地域の活性化をも視野に入れた取り組みを進めている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

平成30年度に国民文化祭の大分大会が開催されることとなり、これを契機に本匠校区で文化芸術の振興に対する機運が高まった。そこで、これまで個別に行っていた文化祭を小・中学校、公民館及び文化協会の合同の文化芸術祭として開催することになった。開催にあたり、小・中学校の取組みとしてふるさとの伝統芸能である「神杖(かみつえ)踊り」「小半団七(おながらだんしち)、扇子踊り」を学習し、文化芸術祭で踊りを披露することが決まった。そのためコーディネーターが窓口となり、地域学校協働活動の一環として地域住民等の幅広い参画により、伝統芸能の継承を軸とした活動を行なった。
この取組みは令和元年度も行われ、今後も続けていく方針となっている。

【実施に当たっての工夫】

公民館が事務局となり、小・中学校、行政、地域の文化協会による実行委員会を平成30年度より結成している。文化芸術祭の会場は、収容人数や観客の集まりやすさを考慮し中学校の体育館とその周辺に設置した。そうすることで飲食コーナーや特産品の販売コーナーを設置でき、学校と地域の交流の場を作ることができた。

【関係機関・団体等との連携状況】

公民館を中心に学校と地域との協議が行われ、文化芸術祭までの活動計画を決めている。令和元年度からは学校運営協議会もこの取組みに加わり、学校と地域の双方の意見を聞きながら熟議を重ね取組みを進めている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

伝統芸能の継承がきっかけで、学校と地域との交流がより活発となった。地域住民にとっては次世代へ伝統芸能の継承ができたことで、子ども達の役に立っているという気持ちを持つことができ、数年来開催されていなかった地区の祭りも行われた。一方、子どもにとっては、自分が地域の中で地域の一員としての役割を果たしているのだという自信につながった。
またこの活動をおとして、子ども達の中で伝統芸能に対する興味・関心が高まり、学習意欲が向上した。その結果、令和元年度は、中学生が地域の歴史研究者から情報提供を受けながら伝統芸能に関する調べ学習を行い、文化芸術祭で学習の成果を発表した。

● その他

地域の子どもの数が少なくなり、子ども同士や子どもと地域住民との交流が少なくなる中で、公民館が中心となり、こども園と小学校合同の「いも植え・いも掘り」や、こども園と地域の更生保護女性会が合同で七夕飾りを作る交流事業などを行っている。



杖踊りの練習をする小学生



中学生と地域の方との集合写真